



新緑クラブ
酒井美代子
議員

▼男女共同参画の推進について

◎ 次世代リーダー育成特別講義、ワークライフバランスセミナーが開催されたが、その結果、動員数、内容を受けて、どう分析し評価しているのか。

▲ 次世代リーダー育成特別講義は、次世代リーダーの育成を目指し、男女共同参画に積極的に取り組んでいる方を対象としたセミナーで、参加者は男性七名、女性十八名の計二十五名であった。内容は、男女共同参画の現状と地域に根づくための課題の説明があり、参加者も啓発されたと考えている。ワークライフバランスセミナーは、地域に応じた男女共同参画に関する住民の意識啓発を図ることを目的に実施され、参加者は男性十八名、女性五十四名の計七十二名であった。内容は、市内において農業や地域社会で活躍している方、大村市の企業の取り組み、育児休業を取得した男性の話の聞くもので、地域での身近な話題に着目した取り組みを今後も進めていくことで、男女共同参画の推進につなげていきたい。

◎ 平成十九年度、二十年度、二十一年度の本市における女性管理職数及び育児休業の取得数の推移はどうなっているのか。

▲ 女性管理職は、清水教育長をはじめ、課長級が十九年度一人、二十年度一人、二十一年度一人となっている。また、係長級以上の役付職員数は、十九年度が課長補佐級二人、係長級八人、二十年度が課長補佐級三人、係長級十人、二十一年度が課長補佐級四人、係長級十一人となっている。育児休業の取得者はすべて女性職員であり、十九年度八人、二十年度八人、二十一年度が予定者も含めて六人である。

◎ 家庭、職場、地域において、男女共同参画、とりわけワークライフバランスの考え方が浸透しない要因は何か。

▲ 男女共同参画は言葉のイメージが影響しているのか、名前が堅い、難しそう、自分には関係ないと言われている。また、ワークライフバランスの考え方の浸透には、世界的な不況に直面し、日本社会全体に雇用不安、生活不安が拡大していることなどから、企業なども当面の対応に追われ、取り組みに対し足踏みしている感がある。

【その他の質問項目】

◇ローカルマニフェスト評価・検証について



新風会
本田 順也
議員

▼ジオパーク認定について

◎ 国や県ではジオパークの知名度や認知度を上げる動きはあるのか。

▲ 雲仙岳災害記念館や平成新山ネイチャーセンターの施設の展示やイベントの取り組みを国、県と一緒に強化していきたい。また、島原半島ジオパーク推進連絡協議会のホームページにも県のホームページからアクセスできるようにしている。さらに、県の広報誌に島原半島ジオパークを紹介していたり、県の観光推進本部が県の観光連盟も島原半島ジオパーク推進連絡協議会の一員として加わってもらうことも了解いただいているので、全国への発信は県と一緒にPRに努めていきたい。また、国における窓口が経済産業省の知的財産課になったことにより、今後は、県はもとより国からの協力もいただきながら、三市が一緒にジオパークの知名度や認知度の向上に努めていきたい。

◎ 海外からの観光客を誘致することに力を入れるべきだと思いがどうか。

▲ 県が実施した広域旅行セミナーを通じ

て、韓国、台湾、北京、上海などで島原半島ジオパークのセールスが行われている。さらに、受け入れ態勢の充実を図るため、英語の外国語ボランティアを対象にした研修会を初め、来年一月から三月にかけて観光関係者を対象にした韓国語、中国語の語学講座を開催することになっている。また、火山都市国際会議のときに協力いただいた県内の外国の留学生にも協力をお願いを始めたところである。

◎ ジオパークに関連する商品にジオパークの認定証を発行してはどうか。

▲ 地域の特産物や農産物で、島原半島ジオパーク推進連絡協議会の事務局に申請をいただいた商品は、ジオパークのロゴマークをパッケージにつけてPRを行っている。今、半島全体で四十四社の使用許可をしている。今後も地元の特産品はロゴマークをつけて積極的にPRを行い、島原のブランド商品としての認識を深めていきたいと思っている。

【その他の質問項目】

◇長崎国体について
◇環境について
◇道徳教育について